



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
 令和4年1月発行・第177号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL:0952-31-6877

1月の生活目標
 ♪お友達と仲良く遊びましょう。
 ♪「かしてね」「どうぞ」
 「いいよ」「仲間にいれて」
 などの言葉を使いましょう。



「新年あけましておめでとうございます」

今年の正月は穏やかなお天気でしたね。元旦、寒さも緩んだ屋間に久しぶりに佐嘉神社にお参りに出かけたところ、昨年とは比べ物にならないほどの人が詣出ていました。コロナ禍で自粛の生活を余儀なくされて2年。何とか打破したいみんなの心の表れのように感じました。今年こそ収束することを願います。

一方、佐賀県立美術館では、風の画家中島潔さんの特別展が開催されていました。中島さんが描く情感たっぷりの女性は、私たち女性が見ても魅力的ですが、私は佐賀の風景の中で遊ぶ童画に魅力を感じています。3人、5人…と複数描かれる子ども達は、それぞれが興味や関心を持つ方向に視線が向き個性的です。中島さんはそんな子ども達の心をしっかり描いて、私に示唆を与えて下さったように感じました。

今年も親子で色々なことにチャレンジして、多様な価値観や感性が磨いて豊かな時間を過ごせることを願っています。
 (三光保育園園長)

クリスマス製作をしました。サンタさんも来てくれて、子どもたちはびっくりしたり、喜んだり・・・♪プレゼント、嬉しかったね♡
 なかよし・プレでは、先生たちの連弾も素敵でした♪



「シニアサロンぽぽら」
 子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか？
日時：1/14 (金) 2/25 (金)

♪育児相談・食育相談をしています♪
 三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。
 ※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
 事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について
 【開園日】月～金（祝祭日・お盆・年末年始を除く）
 【時間】9：00～12：30
 ・園行事の為、ご利用できない場合があります。
 ・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。
 12：30～13：30
 昼休みの為閉園
 13：30～16：00
 ・ご利用の場合は、必ず電話での申し込みをお願いいたします。

1月・2月の「子育て支援事業」のお知らせ

- ・1月11日(火)…赤ちゃんの日(1歳未満)
- ・1月12日(水)・13日(木)…1歳の日
- ・1月17日(月)…2歳・3歳の日
- ・1月19日(水)・20日(木)・21日(金)…フリーディ
- ・1月24日(月)…集いの場(赤ちゃん)
- ・1月25日(火)…集いの場(1歳)
- ・1月26日(水)…集いの場(2・3歳)
- ・2月 3日(木)…2・3歳の日
- ・2月 4日(金)・7日(月)…1歳の日
- ・2月 9日(水)…赤ちゃんの日
- ・2月14日(月)・15日(火)・17日(木)…フリーディ
- ・2月21日(月)…育児講座

※時間：10時～11時
 ※開催場所：子育て支援センター・運動場
 ※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。
 1歳と2・3歳の日は、参加できます。
※事前の電話での申し込みが必要です。
1月分の申し込みは、1/5(水)～9時半～17時です。
2月分の申し込みは、2/1(火)～9時半～17時です。
 ★新型コロナウイルス感染症の状況により、計画の変更がある場合があります。出かける前に必ずホームページで確認してください。感染症対策にもご協力ください。

「なかよし・プレ」は、1月18日(火)・2月8日(火)です。
 2月は、幼稚園のお散歩をします。お楽しみに♪

子育て便り 寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

生活の中で、共に育つ

西九州大学子ども学部子ども学科 准教授 久野隆裕

ずいぶん昔の話ですが、小2の男の子を持つお母さんから、お子さんのことでご相談を受けました。「アスペルガー症候群の本を読んだのですが、読むほどに息子に当てはまることばかりで、専門の病院で診断を受けたほうがいいのかどうか悩んでいます。」というご相談でした。お母さんは、相談を続けたいというご意向だったので月1回お話をうかがうことにして、それからおよそ2年半の教育相談をお受けしました。

アスペルガー症候群は、自閉スペクトラム症のひとつで、対人関係を作ることの困難、相手と感情を共有することの困難、興味関心の幅が狭く特定のものごとに強くこだわる、といった特性があります。お母さんからは、友達が自分のものを運んでくれた親切に対して、自分のものに手を出されたと思ってけんかになったとか、担任の先生が「授業のプリントが終わらなかつたら勉強合宿だ！」と子どもたちにハッパをかけたことを真に受けてしまい、「学校に泊まるの怖い！」と、その授業が終わると家に帰ってきてしまったとか、いろいろなエピソードをうかがいました。その中には、家での日課に時間がかかる、何かが終わっても次に何をしたらいいかわからないようだ、というものがありました。

お母さんは、いちいち「次は〇〇〇〇をしなさい！」と言うのも面倒だし、口うるさくなって気分もよくないからと、ある工夫をされました。新聞チラシの裏紙を細長く切って、家でやること（宿題、着替え、お風呂、夕食など）を1枚にひとつ書いて、針金ハンガーに洗濯ばさみで留めたそうです。息子さんは、やることが終わると短冊をはずし、次にやることを確認するようになり、日課にかかる時間がずいぶん短くなったとおっしゃいました。

行動の見通しが持ちにくいということも自閉スペクトラム症のお子さんにはよく見られます。お母さんはこのアイデアで、見通しの持ちにくさという息子さんの「困り」を見事に解決されたのです。子どもが苦手なことに口うるさくダメ出しをするのではなく、どうしたらできるようになるだろうと考えたお母さんの工夫に、大変感銘を受けました。

男の子は小5になって、友達の支えもあって、グループ学習のリーダーを務めるようになっていました。お母さんはパートの仕事を始められました。それまではとても仕事をする気になれなかつたとおっしゃいました。私は「お母さん、もう大丈夫ですね。」と言い、相談はその回で終了になりました。子どもが「できる状況」を作ってあげることの大切さを、私はこのお母さんから学びました。